

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI



15 DECEMBER 2013

No.173

小樽商科大学
学園だより



What's ゼミ

特集 ゼミってなんだろう？

- 小樽笑店さんにインタビュー
- 国際交流週間の学内イベントに参加しました！
- 2012年度 経済学科授業改善のためのアンケートのまとめ

学園だより

題字は 山本眞樹夫 学長

No.173 15 DECEMBER 2013
OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

CONTENTS

ページ

- 01 特集 ゼミってなんだろう?
- 09 部・サークル紹介
- 11 小樽笑店さんにインタビュー
- 12 Topics 課外活動編
- 14 Topics キャンパス編
- 16 国際交流週間の学内イベントに参加しました!
- 18 新任教員のご紹介
社会情報学科 原口 和也
- 19 2012年度 経済学科授業改善のためのアンケートのまとめ
- 21 EDITOR'S ROOM



What's ゼミ

特集 ゼミってなんだろう？

3・4年生は、ゼミについてどれくらい知っていますか？

1・2年生はゼミでどのような活動をしていくのかイメージはついてますか？

特集ではゼミの選考から卒業論文までの一連の流れや、
ゼミ活動についてのインタビュー等を掲載しました。





ゼミに関すること・ゼミで
学んでほしいことについて、
大矢副学長にお話を
お伺いしました!

ゼミナールを通じて 学んでほしい事・得てほしい力はなんですか

「大きく2つあります。1つ目に、3年生になると専門書を読むと思います。専門書を読むときは、著者が何を言いたいのかを追う、内在的に論理を追求するということが大切です。本の中には、必ず著者の読者に対するメッセージがあります。著者が何を言いたいのか、ということを確認するため、批判的に読まず、自分の先入観を捨て、著者の考えはどうか、著者の立場に立ってみることが大切です。こうすることによって、専門書に書かれていることを、まずは正確に読み取る。このことが大切です。

2つ目に、4年生になると卒業論文に取り掛かりますよね。その卒業論文では、複雑な現象・混沌とした事象について考察していくことになると思います。これらは、経済の問題にせよ政治の問題にせよ、何であっても複雑で、ひと目見ただけではすぐに理解できる内容ではないはずです。まずは、その混沌とした事象を要素ごとに区分し、分析していくということが大事です。あれもこれも、と見ていくとどれが重要なのか分からなくなります。しかし、ひとつひとつ順番に分析したものを考察することによって、何がその事象の重要な要素なのかが見えてきます。そして分析によって得られた要素を、今度は改めて全体像を得るために再構成し、総合します。こうして得られた全体像は、もはや当初の混沌ではなく、自分なりの意味をもたされた全体像となっています。このように分析する力と総合する力を、卒論に取り組むなかで身に付けてほしいと願っています」

ゼミナールの選び方についてアドバイスを お願いします

「とにかく、付和雷同で選ぶことはやめるべきです。どういうゼミがよいのかを、一般的にいうことはできません。だから、選ぶ基準や理由は、それぞれにいろいろあってよいと思います。そうやって自分で選んだゼミは、何かの巡り合わせの結果ということもあります。それでよいと思います。ただ、『友達が行くから』『先輩がいるから』等の誰かについて行くような選び方はやめてくださいということです。自分で選ばないと後から不平や不満が出てくることにもなります。自分の意志で決めた、ということが大事なのです。ゼミを自分で選べといわれてもよく分からないかもしれないかもしれませんが、分からなくても分からないなりに一生懸命、自分で探してみてください」

今ゼミナールで学んでいる学生、 そしてこれからゼミナールに所属することになる 1・2年生にメッセージをお願いします

「ゼミナール活動の上では、いろいろ課題が出されると思います。その課題は、自分のやりたいことではない場合もあるでしょう。しかし、一生懸命取り組んで下さい。全力で取り組まなければ、次の道が見えてきません。目の前の課題を懸命にこなすことで初めて次のステップが見えてきます。このことは、1・2年生についても同じです。目の前の課題に全力で取り組んでほしいということです。

また、すべての学生に対するアドバイスですが、常に自分がどういう人間になりたいのか、どういう人生を歩むのかを考えながら大学生活を過ごしてほしいのです。自分がどうありたいか考え続け、ありたい自分に向かって歩み続けてほしいと思います。それが、幸せな人生を送ることにつながります」(絹川)

ゼミ志望理由書・面接

志望するゼミが決まったら、次はゼミ選考です。ゼミ選考は、志望理由書か面接、あるいはその両方というのが大半です。どういうことを要求されるのか、どういう形式で行われるのかは各ゼミで違うので、ゼミ本をよく確認しましょう。ここでは、編集員のゼミ選考体験談をご紹介します。

志望理由書

私のゼミの志望理由書では、ゼミを志望した理由と自己紹介の2つが聞かれました。この2つは志望理由書を課しているほとんどのゼミで聞かれる内容だと思います。私はまずゼミの内容について触れ、大学2年間で学んできた内容を書き、それをゼミの志望動機につなげました。また、当時新設のゼミだったので新しいゼミでどんなことをやりたいのか、どういう研究をしてみたいのかなどを書きました。志望理由は各自の入るゼミによって違うと思いますが、何もゼミの研究内容に限らず、ゼミに入ってゼミ生たちと何か活動してみたい、でもいいと思います。分量の配分は志望理由が8割、自己紹介2割くらいでした。私の場合は1000字程度でしたが、ゼミによってはもっと分量が多くなることもありますので、早めに取り組むことをおすすめします。(綱川)

個人面接

私が受けた面接は、1対1で30分～1時間程度で行われました。ゼミの志望理由はもちろんのこと、なぜこの大学に入ったか、サークルやバイトといったことも聞かれました。また面接の段階で卒論ではなにをしたいかということも聞かれる場合があります。ゼミによってはゼミ本に書いてなくてもそのゼミに関連する講義を履修しているか、という質問や時事問題への考えを聞いてくれるところもあるようです。基本先生方の質問は志望理由書があれば、それに沿って行われることが多いようですが、書いていないことも聞かれます。

私の時は、公務員志望でありながらどうして憲法や民法といった公務員試験で使われる科目のゼミに行かないのか、といったことも聞かれました。私のゼミは違いましたが、中にはゼミ生を交えて面接するところもあり、先生からの質問だけでなくゼミ生たちからも質問されるといったところもあるので、事前の情報収集は大事かと思います。面接だけのところも多くありますので、心配な方は先輩や友達に面接の練習相手になってもらうこともいいかもしれません。(木南)

集団面接

私が受けた面接は、人数は8人で、2時間かかりました(先生曰く、普通は1時間程度だそう)。

まず、順番にゼミの志望理由と、ゼミで何を学びたいのかを聞かれます。次に学びたいテーマについて先生から質問されます。私の場合は「地域格差」というテーマから、道州制について賛成か反対か、その理由を質問されました。私の番でも、別の人も道州制について聞くなど、他の人の番だからといって、油断していると先生から急に話題を振られました。全員の番が終わると、最後に学科の単位取得状況を聞かれて終了です。2時間緊張し続けたので、家に帰った時は疲れきっていました。

周りの人たちの話を聞いたり、用意していたことは別の話題を振られたり、時間が長かったり。個人面接とは異なることがいくつもあります。(石崎)



▲集団面接の様子(佐野ゼミ)

卒業論文

次は、卒業論文についてです。ゼミ活動の最後に必ずやってくる卒業論文の作成。テーマはどのように決めるのでしょうか、またどのような手順で作成するのでしょうか。学部教務係、図書館、先生にお話を伺いました。

テーマ

テーマについては、ゼミの研究内容に関するものから決定する人が多いようですが、ゼミによってはある程度の条件（卒業論文として形になりそうなもの等）をクリアするものなら何でもよいという場合も。どちらの場合でも、自分が興味を持ったものをテーマにしてほしいという先生の思いは共通している様でした。テーマについては、「どういう風に書いたらいいのか、五里霧中でやっていくと思いますけど、ゼミ生みんなそうなのだから、そんなに心配しなくていいと思う」という先生や「あまりにも進度が遅い場合は、強制的に私の研究テーマについて書くことになりますよ」という先生もいらっしゃいました。ゼミ活動が特殊なので、何をテーマにすればいいのかわかりにくいというゼミも。ゼミを選ぶ際に卒業論文のテーマについてあまり注目することはないかもしれませんが、意識してみると卒業論文に対する考え方もゼミによって様々で特徴的だということがわかりました。

完成までの流れ

スタートはテーマ決めです。このスタートの時期はゼミによって様々。3年生の後期に決めてしまうゼミもあれば、4年生の前半に決めるゼミもあります。テーマが決まると、後は個人作業に入ります。資料集めやフィールドワーク等、各々のテーマによって作業の方法は異なります。先生と個別に相談しながら進めていき、定期的に4年生で集まって進捗状況を報告し合います。1月下旬に学部教務係に提出して終了です。

その後は、学部教務係から研究指導教員へ提出され、チェックされます。無事通過すると、教務係に返却され、そこから業者に製本してもらいます。製本した卒業論文は商大の図書館に保管され、学生ならば誰でも閲覧することができます。

図書館での閲覧について

先輩方の卒業論文を読みたいと思ったときは、図書館に行くことができます（※）。

まず、図書館で「卒業・修士論文閲覧申込書」に必要事項を記入し、カウンターに提出します。論文の番号は図書館のホームページの、卒業（学位）論文一覧から検索し、記入します。図書館の職員から該当の卒業論文を受け取り、図書館の中で読むことができます。ただし、貸し出しやコピーはできません。

卒業論文を書く際になかなか進まない、どうすればいいのかわからないと思ったら、先輩方の論文を読んで参考してみると何かつかめるかもしれませんね。

※現在、図書館は工事中のため、閲覧できるのは平成24年度の卒業論文のみとなります。（石崎）

▶卒業・修士論文閲覧申込書

平成 年 月 日

小樽商科大学図書館館長 様

学生番号 _____

氏 名 _____

(学外者の場合はのみ住所を記入)

住 所 _____

指導教員 _____ 印

卒業・修士論文閲覧申込書

下記の事由により、卒業・修士論文の閲覧を申し込みます。

記

1. 論文題名 _____ NO. _____

論文執筆者 _____ NO. _____

論文題名 _____ NO. _____

論文執筆者 _____ NO. _____

論文題名 _____ NO. _____

論文執筆者 _____ NO. _____

2. 閲覧理由 _____

※ 卒業・修士論文の複写はできません。（図書館の承認を得ている場合を除く）

※ 2記入いただいた個人情報は、閲覧、統計のために利用します。法律で定められた例外を除き、個人情報を第三者に提供することはありません。

ゼミナール協議会



ゼミナール協議会の活動について、ゼミナール協議会の会長の西岡さんに、お聞きしました。

ゼミナール協議会会長
西岡 智哉さん

ゼミナール協議会の主な活動についてお聞きすると、「基本的には、インナーゼミナール大会とゼミ合同レクリエーションの開催が主な活動になります。それに加え、ゼミナール紹介本の作成、今年度から、合同ゼミ説明会を商大充の方と一緒に開催しました。合同ゼミ説明会では、ゼミに所属している学生と交流し、ゼミに関する活動をよく知ってもらおうと企画したイベントで、2年生が300人程、それからスタッフ・参加したゼミ生の方々も加えてたくさんの方に参加していただきました」と西岡さん。インナーゼミナール大会とレクリエーションについてお聞きすると、「インナーゼミナール大会は、参加ゼミを募り、ゼミ単位で研究発表を行うというイベントです。今年度は諸事情により開催できませんが、毎年いくつかのゼミが参加しています。来年度は広く参加できるよう工夫を凝らして開催したいと考えています。レクリエーションは、今まではボーリング大会等でしたが、もっとたくさんのゼミから参加してもらえるよう、今年度は学生会館・食堂を借り切った立食パーティを行います。今までの慣例を少しずつ変え、皆さんが楽しめるような企画を考えていくつもりです」とのこと。最後に、ゼミ協のこれからの活動について、「商大にはクラス制度がないため、どうしても所属サークル等のコミュニティで固まる傾向があり、3年生になるとなかなか新しいコミュニティを作る機会がありません。そこで、ゼミ協の開催するイベントを通じて、様々な人と交流してもらえたらな、と思い活動しています。また、人手が足りないので、ゼミだけでなく他のサークルの方とも協力して運営していきたいですね」と西岡さん。これからのゼミ協の活動が楽しみです。(絹川)

ノンゼミとは？

皆さんはノンゼミという言葉聞いたことがあるでしょうか。聞いたことがある人でも、どういう仕組みなのか分からないのではないのでしょうか。そこで、今回編集員が教務係の方に突撃取材してきました！

教務係の方によると、「ノンゼミは教務係に理由を添えて書類を提出し、その内容を各学科等の会議で審査します。会議で承認を得られれば、ノンゼミとなることができます。しかし、**本学ではゼミ(研究指導)は原則必修であり、ノンゼミはあくまで例外です**」とのこと。詳しくお話を聞くと、「どちらかという3年次の終わりに、今のゼミが合わないという理由でノンゼミを選ぶ学生が多く、3年次の前にノンゼミとなる場合でも、自分の興味のあるゼミがないから、ゼミをやりたいからなど、かなり後ろ向きな理由でノンゼミを選ぶ人がいます。多少自分が学びたい分野と違って、積極的に学ぶ姿勢を持ってゼミに取り組んでほしいですね」とのこと。実際、理由によっては各学科等の会議で承認されず、ノンゼミの申請が通らない場合もあります。**2年次のゼミ選びの段階できちんと考え、ノンゼミになることは避けるべき、ということですね。**

(絹川)

ゼミ活動

具体的なゼミの活動についてです。
実際に色々なゼミに取材してきました。

柴山ゼミ

柴山ゼミ

柴山ゼミは3年生も4年生も木曜日に活動を行う合同ゼミです。3年生が『TTPと日本の決断』という本を、4年生が『夫婦仲の経済学』という本をそれぞれ輪読し、パワーポイントを使って報告するそうです。報告後は他のゼミ生から意見を聞き、最後にディスカッションを行う、という方法で普段は活動しています。また、時々火曜日に4年生が集まり、卒業論文の報告をする日もあるそうです。

特別な活動としては、年4回小田ゼミ、加賀田ゼミ、小林ゼミと一緒にディベート大会を行っています。このディベート大会は学生主導で、幹事団がテーマを3つ決めて賛成反対で2つのゼミが対抗し、2勝したゼミが優勝するというもの。11月15日に行われたディベート大会では柴山ゼミが優勝しました。「ディベート大会の準備のためにゼミの時間以外も集まっていたね」と先生。他にも課外活動として、緑丘祭の『しば屋』（焼鳥屋）の運営や、合宿、花見等も行うそうです。「学生の仲が良いので、私が知らないところにいるいるイベントを企画して楽しんでいるようですよ」。

ゼミの雰囲気はとにかく仲良しだと先生は何度も繰り返しました。「今年のゼミ生は空気を読んでいる様な大人の仲よしという感じですね。子犬がじゃれ合う様な年もあって、毎年仲良しの感じが違いますね」と先生。卒業論文ではのんびりと始める学生が多いそうで「本当は夏休みにはもう始めていた方がいいのだけれど、滅多にいないです。早く終わったら残りの時間で海外旅行に行けるよ、と言っているのですけどね」。(石崎)



▲柴山ゼミ (ディベート優勝時)

Message

メッセージ

「ゼミ選考の時に、落とされる事が怖くて第一志望に応募しないという学生がいます。来たいと思うなら、まっすぐ来て欲しいし、落とされても、『ご縁だ』と思って、自分が否定されたと思うような過剰な反応はして欲しくありません。就職活動も同じですね。身構えるのではなく、リラックスしつつ、ポジティブに。そういう心のポジションの持たせ方を若いうちから学んで欲しい。逃げの姿勢では欲しいものは何も得られないですよ」

近藤ゼミ

近藤ゼミ

近藤ゼミでは、皆さんもご存知かと思いますが、i-vacsという株式会社を経営しています。ゼミの活動もi-vacsに関わるものが多いそうです。i-vacs以外では個々の企業のケース分析を行っているそうです。近藤先生によると、「i-vacsの運営を通じてマーケティングの実践、そして企業経営の実態を知り、ケース分析を通じて理論を学びます。そうして、知識と実践能力の両方を養うことができます」とのこと。知識を実際に使えるようにすることが大切だということですね。

特別な活動についてお聞きすると、「ここ数年からですが、卒業旅行は海外に行っています。学内では他ゼミとのディベート大会にも参加していますし、過去には他大学との交流も行っていました。i-vacsも特別な活動に入るでしょうし、他のゼミとはちょっと一風変わっているかもしれませんね」とのことです。ゼミの雰囲気は「活動の特性上、チームワークが大切ですので、仲が良くないと活動は難しいですね。OB・OGとの交流も盛んで、仲の良いゼミだと思います」と、ゼミの雰囲気を語ってくださいました。また、ゼミは内定後すぐ2年生から活動を始めるそうで、「早く慣れてもらう、というのと3年生が就職活動で忙しくなるので、活動する人数を補うという2つの理由からです。また、NOMIPONの営業などゼミ時間外での活動もあるのでガチゼミとされているようですが、そうでもありませんよ」と近藤先生。また、そうして時間が縛られることが多いため、学生は時間の使い方がうまくなるのだそうです。(絹川)



▲近藤ゼミ

Message

メッセージ

「ゼミ活動に対する考え方はそれぞれ違うと思います。ゼミで頑張るのが必ずしもすべてとは思いません。ゼミはあくまで大学生活の一要素です。大学生活の中でゼミにどれくらい重点を置くのかは学生個人が考えれば良いと思います。ただ大学は、専門知識をつけるためだけではないので、きちんと学生としての素養・教養を身につけて欲しいです。4年間でこれだけは頑張ったと言える何かを、1つでもいいですから見つけて、後悔の無い様に過ごして下さい」

林 ゼミ

林ゼミは、民法に関するゼミであり、主な研究内容は債権法や物権法を学ぶゼミです。林ゼミでは年度の初めに半年あるいは一年取り扱う分野のテキストの輪読、ゼミ生からの報告と質疑応答、都合が合えば他大学との合同ゼミといった、大きく分けて3つの活動がされているそうです。また公務員試験の問題を2、3問選んで各回のゼミの初めに10分程度で解いて解説してといったこともされているようです。

特別な活動については1つは先ほどの他大学との合同ゼミが挙げられ、事例を用いた模擬裁判形式で行われます。素材とされる事例は教員側から出され、2~3ヶ月かけてそれを検討していくという形で行われ、例えば代理や時効、請負というように、年によって出される問題が違ってくるそうです。ゼミの雰囲気は年ごとに違ってくるけれど議論は活発な方が・・・と笑う林先生。

他の活動については「基本は学生の自主性に任せているため、その年でゆったりやらなかったりではあるけれど以前はゼミ合宿を試みたり、クリスマスパーティーを試みたり」というお話でした。(木南)



▲林ゼミ

林ゼミ

Message

メッセージ

「法律を勉強するときは具体的なイメージを持って勉強してほしいです。法律用語は抽象的で難しい言葉が多いですが、実際にどのような意味を持ち、どのような場面で使われるのかということ、具体的なケースで学ぶことが大切だと思います。おすすめは裁判例を勉強することです。これにより理解を深めることができ、面白みをもってもらえるのではないかと思います。また、わからないことは皆一緒です。間違ってもいいから質問や発言を試みることも大事かと思います」

木村 ゼミ

木村ゼミではSEA-NAという会社を運営しています。現在の3年生は全員が会社に関わっており、ゼミの時間は先生も一社員であるかのように経営について語り合うことが多いようです。SEA-NAで現在1番大きな活動は、デジタルサイネージに関する活動だそうです。デジタルサイネージとはディスプレイ等に映し出される広告や案内表示といったコンテンツのことです。学内では、ビジネス創造センターなどから依頼を受けてコンテンツの制作を行っているとのこと。購買前にあるディスプレイの映像も、木村ゼミで作っているそうです。他にもホームページの保守・管理や、北海道ライカーズというフェイスブックページの記事制作の仕事も行っており、全員で1つのことをするというよりは3、4人で担当を決めて動くことが多いそうです。また、木村先生の専門は自然言語処理であり、3年生は今後それについても勉強していく予定だそうです。4年生になると卒業論文を書くための活動が主となり、個人で動くことが増えるためゼミとして全体で集まる機会は減るようです。

特別な活動は「大人に会いに行くというよりは一緒に仕事をしている」ことだと言います。現在も、学生だけでは作れないような大規模なコンテンツを、大人とチームを組んで作成しているそうです。

ゼミの雰囲気についてゼミ生の方にお聞きしたところ、非常に仲が良く、ゼミ終了後にみんなでご飯を食べに行くといったことがよくあると教えて下さいました。また、忙しい時とそうでない時の温度差はあるかもしれないとのことでした。(澤田)



▲木村ゼミの様子

木村ゼミ

Message

メッセージ

「大学への感謝を忘れずに常にきれいに使いましょう」

ホルストゼミ

ホルストゼミは、社会言語学についてのゼミです。社会言語学とは、その人の立場や環境による言葉の伝わり方の違いについて研究する学問です。ゼミの活動は、3年次はテキストを読んで、内容を発表・ディスカッションするという形式で、他にもグループプロジェクトとして2グループに分かれて研究し、それを4年生の前で発表するなどの活動もしているそうです。後期になると、それに加えて社会言語学の歴史について学ぶべく、それぞれが順番に専門書を読んでいくそうです。これら3年次の活動について、ホルスト先生は「専門書はすべて英語で書かれているため、リーディングの力が必要になりますし、発表する際にも英語で行うのでスピーキングの力も必要になります。日本語は一切使わないので、英語の力がつきますね。」とのこと。そして4年次には、卒業論文の完成に向けてテーマ決めや調査・資料集めなどの活動が主となるようです。また、12月ごろには3年生に対して卒業論文に関する発表もあるそうです。



▲ホルストゼミの様子

特別なゼミ活動についてお聞きすると、「ラオスにある教育大学と、インターネットを通じてテレビ会議でお互いの研究発表などの交流を予定しています。」とのこと。また、ゼミの雰囲気は「英語で普段からコミュニケーションをとる必要がありますし、皆仲良くおしゃべりしているように見えます」と、かなり和気藹々とした雰囲気の様です。(絹川)

Message

メッセージ

「真面目に勉強して欲しいですね。就職とか卒業後の未来のことは大切だけれども、大学で4年間を過ごす意味を考えて、ゼミ活動に限らず自分の興味・関心のある分野を深く学んで欲しいです。4年間だけのチャンスを、うまく活かしてください。また、分からないことはどんどん先生に聞いてください。きっと快く答えてくれるはずですよ。少なくとも、私は学生から質問されるのはとてもうれしいです」

番外編

江頭ゼミがあんかけ焼きそばの事典を作成！

9月、江頭進先生のゼミの学生が『小樽あんかけ焼きそば事典』を発売。市内64店舗（第2版では63店舗）のあんかけ焼きそばを掲載している他、あんかけ焼きそばの歴史などが書かれています。第13期江頭ゼミ代表、齋藤創平さんにお話を伺いました。

江頭ゼミでは3年前に、『小樽ラーメン事典』を作っています。その事典は「小樽市にはラーメン屋さんがたくさんあるのに、なぜ『小樽ラーメン』がないのか」という疑問から作られたものでした。結果「小樽市民はラーメン屋さんでラーメンを食べていない」ということになり、では何を食べているのかという、あんかけ焼きそばでした。そこであんかけ焼きそばの事典を作ってみようということになったそうです。

事典は3年生が作成。「無料配布ではなく発売する予定だったため、クオリティーを高くするために紙面をどういった流れにするか、ミーティングを何度も行った」と齋藤さん。7グループに分かれてお店をまわり、歴史等については、図書館で調べたり、昔を知っている方にお話を聞いたりして、時には旭川まで行ったそうです。

作った感想を聞いてみると、「結構楽しんで作りました。」と齋藤さん。しかし校正作業では、合同ゼミと時期がかぶり、二セコからそのまま大学に行き、疲れたまま校正作業をしたのだとか。現在苦勞していることは、増版してからの売上が伸び悩んでいること。「できたときは確かに達成感もありましたが、スタート地点に立つことができただけで、ゴールは売れることだと思っています」。

商大生にメッセージをお願いします。「せっかく小樽まで来ているのだから、すぐに帰らず坂を下りて、あんかけ焼きそばを食べてほしいです。もしお店選びに困ったら、お得なクーポンもついているのでぜひこの事典を手にとって、買ってほしいですね」(石崎)



▲齋藤創平さん (3年)

部・サークル紹介

とうとう雪が積りましたね。冬になり大学の講義も少し落ち着いてきたころ、サークルに興味がある人は寒さにも負けないこの団体などどうでしょうか。

生け花サークル

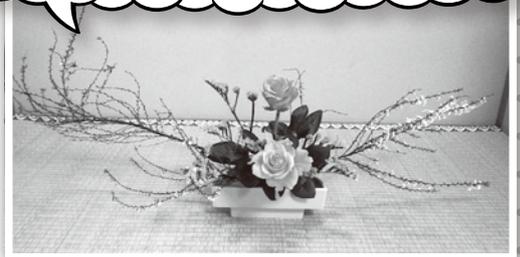
商大に生け花サークルがあることをご存知ですか？私たち生け花サークルでは、部員を大募集しています！生け花という敷居が高く感じられるかもしれませんが、全員未経験からスタートして、兼部もしながらそれぞれのペースで生け花を楽しんでいます♪ぜひ一緒に、お稽古してみませんか？見学・体験会で、皆さんの参加をお待ちしています！

練習日/月2回 火曜日のお昼休み(12:05~12:40頃)

場 所/大学会館1階和室(ATM裏側) 費用/1回1000円(お花代)

※見学の場合は無料です。12月の見学・体験会日程はお問い合わせください。

連絡先(PC) ikebana.ouc@gmail.com (TEL) 090-7055-0613 担当/黒崎



アドレスの
QRコードはこちら→



軟式野球同好会 RANGERS



こんにちは！軟式野球同好会RANGERSです！現在、選手、マネージャーを含め総勢約60名で活動しています。シーズン中は、週2の練習なのでバイトも勉強も支障がなく行えますよ！！数年前には全国に行きました。そんな実力のあるチームですが、初心者も多数います。その理由は…そう、このRANGERSが楽しいサークルだからです！！野球以外ではキャンプ、そしてフェスという音楽のイベントもあります！みんなが楽しめるサークルですよー！！また、みんな学年関係なくとても仲がいいです！打ち上げにはよく小樽の三川屋という所に行っています。そこでみんなでわいわい楽しんで、その後カラオケ…というのが定番です。野球好きなら誰でも大歓迎！少しでも興味があったらぜひ、RANGERSへ！！

写真部

こんにちは！シャッターチャンスは逃さない、写真部です！私たちは現在12人で活動しています。主な活動としては、緑丘祭での展示、小樽でのライブのバンド撮影、三月展があげられます。加えて、今年はミス商大の撮影も担当しました。その他、空き講で小樽の街並みを撮りに行ったり、コンテストに応募したり、写真展まで足を運んだり…etc.

商大写真部の魅力は、なんといっても自分で現像ができちゃうことです！デジカメが主流の今日、自分の手で白黒写真を作り上げていく作業は新鮮です。特に試行錯誤を重ねて納得のいく一枚ができたときは感無量ですよ！もちろんフィルムカメラだけではなくデジタル派も大・歓・迎！写真を撮るのが好き・写真を眺めるのが好き・生涯の趣味を探しているそのアナタ！商大写真部で大学生活の楽しみ、倍返しにしませんか？



プレクトラム・アンサンブル



こんにちは！プレクトラム・アンサンブルです。私たちは学内音楽系サークルで最大規模の人数(55人)を誇るサークルです！私たちのサークルはマンドリンというイタリア生まれの弦楽器や、コントラバス、ギターを演奏しています。主な演奏行事は、夏の演奏旅行(今年は函館に行きました♪)や、毎年11月に小樽市民会館で開催する定期演奏会です。そのほかにもたくさんのイベント満載で、学校生活が充実すること間違いなしですよ！毎週水曜・土曜の週2回、サークル会館にて、賑やかに活動しています！大学から音楽を始めた、楽譜が読めないといった部員もたくさんいるので、音楽経験の無い

方もご安心を。皆さんのお越しをお待ちしています。みんなで楽しくマンオケしましょう！！

興味のある方は、部長：横田(unknownorchestra46@gmail.com)に連絡ください(^o^)/

放送サークルたるもじゅ

みなさんこんにちは！たるもじゅは3年生4名、2年生7名、1年生4名の計15名で活動しています(・θ・)

現在は週一回の市内ラジオ局での番組放送や、映像作品の制作、また全国道内様々なコンクールへ参加し、映像作品・音声作品の応募を行っています。ラジオやマスコミ関係、映像制作に興味のある人は是非一度！サークルに遊びに来てください。

毎週木曜昼休みに定期MTを行っているので興味のある方は以下のアドレスまで連絡ください☆ →talumoju2011@gmail.com 放送サークルたるもじゅ



翔楽舞



こんにちは！小樽商科大学“翔楽舞”です！私たちは6月に札幌市で開催されているYOSAKOIソーラン祭りに毎年100人以上の舞員と一緒に出場しています！小樽の人たちに支えられてチームが活動できることに感謝を込めて、お祭りが終わった後も様々な場所で演舞を披露させていただいたり、ボランティアに参加したりと年中楽しく活動しています(^.^)そんな普段は商大の外での活動が多い翔楽舞ですが、商大生にもっと私たちの演舞を観てもらえたらな、翔楽舞を知ってもらえたらなという気持ちで、昨年から学内定期公演というものを年に数回開催させていただいています。次回の定期公演は1月28日の昼休みに大

学会館食堂隣の多目的ホールで行いますので気軽に足を運んでくれたら嬉しいです(*^^*)

『学園だより』学生編集員

こんにちは。本誌を作成している『学園だより』学生編集員です。

私たちは年4回発行の『学園だより』のうち、7月号と12月号を担当しています。編集員になると、様々な人との出会いが待っています。学生はもちろん、先生や職員の方々、OBの方にもお会いする機会があります。大学の意外に知らなかったことや、かつての大学など、勉強になることはいっぱいあります。空き時間を使って自由に作業ができるので、兼部やバイトも大丈夫！「原稿を書いたり、取材したりするのって難しそう」と思っている方、「インタビューとかコミュ障の私には無理！」と思っているその貴方！安心してください！私たちも最初はそうでした！未だに緊張したりもします。でも代わりに面接などに打ち克つ度胸もつきます。商大の歴史としてずっと残る『学園だより』と一緒に作ってみませんか？少しでも興味のある方はこちらまで

→ouc_gakuendayori@yahoo.co.jp (『学園だより』のバックナンバーをインターネットで見ることができます。ぜひ読んでみてください)

小樽笑店さんに インタビュー

小樽の様々なイベントに携わっている小樽笑店さん、
今回はその知られざる活動に迫ります！



小樽笑店代表
本間 智美さん

— 普段どのような活動をしているのですか？

「基本的には、夏と冬に大きなイベントを計画し、春には夏のイベントの準備を、秋にかけては冬のイベントの準備を行っています。そして、地域のボランティアも活動の一つで、例えば、春に開催された『春祭り』のお手伝いや、夏に行われた『潮まつり』や『がらす市』というイベントのお手伝い、また秋には『アートストリート』というイベントが開催されており、そのイベントを彩るバルーンアート装飾の手伝いも行っています。さらに、冬の『雪あかりの路』というイベントで使うアイスク্যান্ডルの制作も行っています。

他のサークルと協力して様々なイベントを行うことも多いです。例えば、翔楽舞さんや、応援団さんのステージを用意して、演舞を披露してもらったりもしました。」

— 行われたイベントについて教えてください。

「夏には『サンサンサマーフェスティバル』というイベントを開催しています。毎年サンモール一番街で行われていたのですが、今年は運河公園で行うことになり、規模もかなり大きくなりました。内容は、小さな子供達を楽しめるイベントが多く、

それに加えて小樽商科大学の他のサークルにも協力してもらって、出店を開いたりもしました。冬には『サンタモール』という

イベントを開催しており、去年までは装飾をメインに行っていました。しかし、今年は会場も変わり、全く新しい趣向になったのです。」

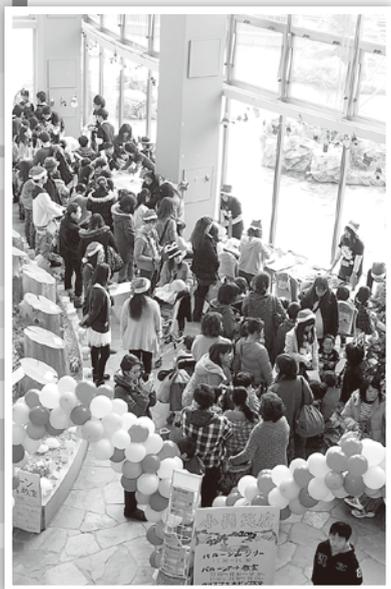
— 今年のサンタモールはどのように変わったのですか？

「まず、今年のサンタモールは、小樽ウイングベイのネイチャーチャンパーという広場で開催されました。例年サンモール一番街で行われていたこのイベントにとっては大きな変化です。また、時期もクリスマスから12月初旬に変わりました。

今年のサンタモールは、クリスマスをコンセプトとしたバルーン装飾や、企画を行いました。さらに、小樽ワークキッズという団体と共同して、ワークステーションという子供たちに職業体験をしてもらうというイベントが開催されました。このイベントには、子供たちに小樽の様々な職業を知ってもらい、小樽に根付かせようというコンセプトがありました。今回は他団体との初めての共同計画ということもあり、企画のコンセプトが曲がらないよう、何度も打ち合わせを重ねて準備しました。これもまた私たちにとって新しい経験で、いい刺激になりました。

今年のサンタモールは子供向けの企画が中心です。しかし、子供達だけではなく、その親である大人にも、そして私達学生にも楽しめる内容も多く取り入れました。どんな人でも楽しんでもらえる、そんなサンタモールを作り出せたと思います。」

(藤本)



▲サンタモール2013の様子

第49回全日本 学生ハンドボール選手権 大会出場

女子ハンドボール部主将 佐々木 葉子さん
(経済学科3年)



私たち女子ハンドボール部は、今年で創部7年目の部活です。経験者よりも初心者の方が圧倒的に多い中、チーム全体のレベルアップと試合での勝利を目標に、日々練習に励んでいます。

去年新チームとしてスタートしてからは、人数不足により練習が成り立たない、試合を組めないといったプレー上の問題から、モチベーションのばらつきやメンタル面の問題まで、チームの統一が困難な状況が続きました。しかし今年の春に入部してきた1年生の頑張りを見て刺激を受け、全員の意識が一気に高まり、チームの方向性が定まりました。

そして北海道春季リーグ戦大会で初の準優勝を果たし、東日本学生ハンドボール選手権大会に出場。その後も全国を見据えた練習を重ねた結果、先日行われた北海道秋季リーグ戦大会では、9年連続で優勝していた強豪の北星大学を破り、念願の初優勝を果たし、全日本学生ハンドボール選手権大会の出場の権利を得ました。

今後の目標は、全国大会で得られる経験をもとに、レベルを落とすことなく北海道のチームを引っ張れるような技術を身につけることです。来年度以降も試合で勝ち続けるチームであるため、密度の濃い練習を継続し、「北海道といえば樽商」と言われるような存在になることが最大の目標です。



北海道ALLクラス チャンピオンシップ優勝

ビリヤードサークル5&H 宮口 高虎さん
(商学部1年)

小学校5年生の時、父親と一緒に卓球場にあったビリヤード台で球をついたのが始まりでビリヤードの魅力に取りつかれ、その後、中学・高校と続けてきた宮口さん。これまでに数多くの大会に出場し、高校3年生の時には全日本ジュニアインボール選手権で第2位となり、ポーランドで開催

された世界ジュニア選手権に出場、今年は、学生では出場が難しいとされる全国マスター大会にも出場を果たし、その後、北海道ALLクラスチャンピオンシップでみごと優勝しました。現在は小樽都通りにある「ビリヤードアラカワ」を練習場所とし、主人でもある現役プロの荒川さん指導の元、日々練習に励んでいます。そんな輝かしい経歴をもっている宮口さんですが、「今後は1つ1つのショットの精度を高め、メンタル面の強化を図り、大舞台でも常に普段の力を発揮できるよう頑張っていきたいです。大学卒業までの目標はアマチュアプレイヤーの頂点であるSA級クラスに入ることです。」と力強く抱負を語ってくれました。宮口さんの今後益々の活躍を期待しています！

札幌市商店街再生事業 学生アイデアコンテスト 最優秀グランプリ受賞

保田ゼミナルこばチーム 荒谷 沙織さん
(経済学科3年)

9月14日に札幌市主催で行われた「札幌市商店街再生事業学生アイデアコンテスト(※)」に「小樽商科大学保田ゼミナルこばチーム」として出場し、アイデアプラン「ボクマチスクール」でグランプリを受賞いたしました。ボクマチスクールは「商店街で大学生が小学生と一緒に勉強する」というプランです。

プランを練り込むにあたって、8月の炎天下のなか発寒北商店街・新琴似商店街・札幌商店街の3つの商店街を歩いてフィールドワーク調査を行い、保田先生とゼミメンバーに何度もフィードバックをもらいプランをブラッシュアップしました。実際に商店街の様子を見て回れたことは、商店街の役に立つアイデアを考える上で一番重要な経験でした。

最優秀グランプリをいただき、商店街での実現化を現在進めています。教育に興味がある、または何かプロジェクトを進めていきたい!という学生メンバーを大募集中です。参加者全員が楽しめるプロジェクトを目指していますので、少しでも気になった方は保田ゼミ室(情報処理センター前)のドアをノックしてください。一緒にボクマチを作っていきましょう!

※札幌市が主催したコンテストで、発表7件中3件が小樽商科大学からの参加。当日は、大矢副学長も応援にかけつけました。



写真中央から右側が商大チーム



演劇戦線 40周年記念式典開催

演劇戦線 澤田 菜穂さん
(社会情報学科3年)

演劇戦線は10月12日(土)に小樽倉庫No.1で『演劇戦線40周年記念式典』を行いました。当日は、『演劇戦線』の名前をつけた大先輩の方々から私たち現役生まで年代を問わず、演劇戦線に関わった多くの人たちが集まりました。

午後3時に始まった式典は、創立者の方による演劇戦線の歴史について、現役生に

よる演劇、OB・OGの方々による出し物などたいへん賑やかな会となりました。

OB・OGの先輩方は私たち現役生にも気さくに話しかけてくださり、私たちの知らない過去の演劇戦線を知る貴重な場となりました。会わなかった期間があることを感じさせずに笑いあう先輩方の姿から、演劇戦線で過ごした時間の密度を感じました。また、同時にこの方たちがいたからこそ現在の演劇戦線があるのだという思いを改めて強くしました。私たちも後輩たちへと演劇戦線をきちんと引継ぎ、次の50周年やその先もこのような式典を行えるように活動していこうと思います。

「OBS10周年記念講演会・シンポジウム」を札幌で開催

本学アントレプレナーシップ専攻（小樽商科大学ビジネススクール：OBS）は、創立10周年という節目の年を記念して、8月31日に札幌（札幌プリンスホテル）でシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、テーマを「アジアの成長を“Hokkaido”で捕まえる」と設定し、北海道内の企業・自治体が北海道の地域ブランドをどのように高め、また、成長するアジア市場に対してどのように売り込むべきかについて、基調講演、事例報告及びパネルディスカッションを行いました。

第一部の基調講演では、ノースウェスタン大学からクラーク・ケイウッド教授をお招きし、「情報発信チャンネルをいかに統合して効果的な情報発信を行うか」との専門的見地から、地域ブランド構築の秘訣についてご講演いただきました。第二部の事例報告では、タイ国政府観光庁副総裁のサンスーン・ガオランシー氏、石屋製菓株式会社代表取締役社長の石水創氏をお招きし、北海道から見た海外マーケット、海外から見た北海道マーケットという、インバウンド及びアウトバウンドの取組事例について報告いただきました。第三部のパネルディスカッションでは、経済界、自治体、一般市民及びOBS関係者など約230名の出席者から多数いただいた質問に基づき、地域ブランドの構築及び海外マーケットへのビジネス展開について、講演者及び事例報告者と共にディスカッションが行われ、盛会のうちに終了しました。



7th East Asian Triangle International Symposium : Management Studies in East Asian Countries (東アジア3大学国際シンポジウム —東アジア諸国におけるマネジメント研究—)を開催

10月4日、小樽商科大学、韓国忠南大学、中国東北財経大学が輪番で毎年行っている東アジア3大学国際シンポジウムを、今年は商大において、「東アジア諸国におけるマネジメント研究」をテーマに、忠南大学・東北財経大学から研究者や大学院生等9名を招いて開催しました。

午前の部では、今回初めての試みとして、本シンポジウムを教育の場としても活用するため、若手研究者等の発表の場が設けられました。3大学の博士後期課程在学中の大学院生3名がそれぞれの研究について英語で発表、別会場では3大学出身の若手研究者等3名による研究内容が日本語で発表され、質疑応答が交わされました。続いて午後の部では、3大学に在職する研究者3名が英語での発表を行いました。中国東北財経大学のワン・シャオリ講師、韓国忠南大学の口・ジュンファ教授、本学の猪口純路准教授が、テーマに基づき各国の実情を背景とした研究成果を発表し、活発な意見交換が行われ、3大学の学術交流は成功裏に終わりました。



挨拶をする山本学長



発表する商大の大学院留学生 王力勇さん



文部科学省

地(知)の拠点

小樽商科大学が「地(知)の拠点整備事業【通称:COC】」に採択されました。

COCとはCenter of Communityの略です。地域を志向した教育・研究・地域貢献を自治体等と連携して「全学的」に進める大学が支援されます。

全国から319件の申請があり、52件が採択されました。北海道で採択された大学は、本学と札幌市立大学さんの2校です。

本学の事業テーマは、「地域と共創する北海道経済活性化モデルと人材育成」

低迷する北海道経済に対して、研究面でも教育面でも全学的に地域課題の解決を目指していきますが、特に観光振興を軸とした地域経済活性化のモデルケース創出を目指します。

このモデルケースの舞台となるのが、小樽市、倶知安町やニセコ町といった後志地域、そして札幌を加えた「後志地域+札幌」です。この地域を総合観光地域として、観光客に最低1週間滞在してもらえるような仕掛け作り、新たな観光資源の発掘、地域ブランドの向上や地域間ネットワークの形成といった取り組みが予定されています。

そして、この事業を通して地域志向型の教育が推進されます!!

地域経済が活性化するためには、地域の特徴や課題を十分に理解し、その魅力を世界各地に発信できる人材が必要です。今では多くの企業や自治体が求めている人材ですよね?

皆さんの中には、地域のさまざまな課題解決に挑戦する講義を履修したことがある人もいると思いますが、そんな地域課題に触れる教育や研究が、これからさらに充実していくでしょう!!

大学は、地域を理解し、地域課題を解決し、地域の魅力を世界に発信できる人材育成に取り組みます。共に頑張りましょう!

『最先端のICTを活用したアクティブ・ラーニングの公開』を開催

10月18日、講義棟3号館2階213AL教室(AL:アクティブ・ラーニング)において、「最先端のICTを活用したアクティブ・ラーニングの公開」が開催されました。

本学では、教員による一方的な講義形式の教育を改善し、学生の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法(発見学修、問題解決学修、体験学修、調査学修等)を開発に取り組んでいます。

グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等が有効に展開できる「AL教室」と、そのサポートを担う「ALサポートセンター」の整備が今年度完了したことに伴い、オープニングセレモニーおよびAL成果報告会、ICT機器活用体験等を開催しました。

公開当日は文部科学省、北海道内国公私立大学、地方自治体、高等学校(小樽、札幌)、小中学校(小樽)、企業、本学同窓会等から総勢110名の参加があり、参加者からは、アクティブ・ラーニングの教授・学修法や、ICT機器設備について、様々な質問・意見等が寄せられ、盛況のうちに幕を閉じました。



最新機器が整備された教室にて、山本学長による挨拶



大津准教授によるアクティブ・ラーニングの成果報告会

国際交流週間の 学内イベントに 参加しました！

今年10月19日～10月25日まで開催されていた国際交流週間。毎年、様々な企画があり大変盛り上がっています。今回、学内で行われていたイベントをご紹介します！

各国文化紹介パネル展

国際交流週間の期間中、各国の留学生達が作成した出身国の紹介ポスターが大学会館2階に展示されていました。大きなイラストが描かれているものや、写真を使ったものなど、目で楽しめる工夫がなされていました。

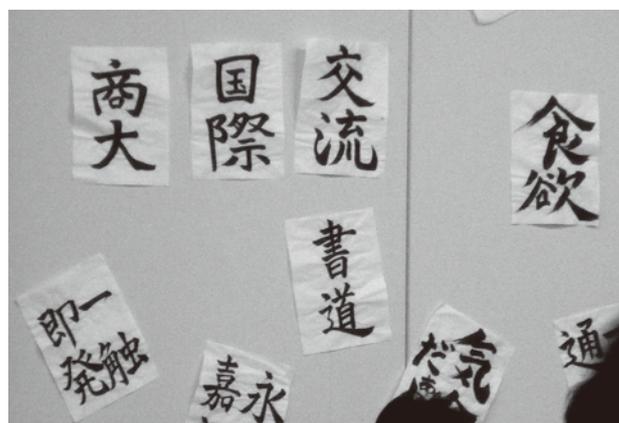


留学説明会・留学報告会

23日、多目的ホールで留学説明会・報告会が開かれました。留学報告会では、語学研修や交換留学に行った学生がその体験を報告、留学説明会では留学の方法と商大の留学制度について説明があったほか、商大の先生による留学のすすめ、という講演も行われました。また、25日には春季語学研修に関する報告・説明会も開かれました。

商大生協学生委員会による 国際交流イベント

23日には、日本の文化を楽しみながら留学生と交流するイベントが行われました。茶道や書道といった日本の伝統文化のほか、遊びの文化として二人羽織やとんとんずもう、紙ひこうき飛ばし、折り紙といったブースがありました。



折り紙ブースでは、折り鶴や手裏剣などを日本人学生や生協学生委員が本を見せながら留学生に教え、完成したものをお互いに見せ合



いながら談笑していました。20人弱の留学生が参加し、日本文化を楽しんでいたようです。



文化交流会 「わたしのお国自慢」

25日、多目的ホールで留学生が出身国についてプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、写真や動画、イラストにアニメーションといった聞き手を楽しませる工夫がされているほか、伝統的な衣装を着て紹介する留学生もいました。



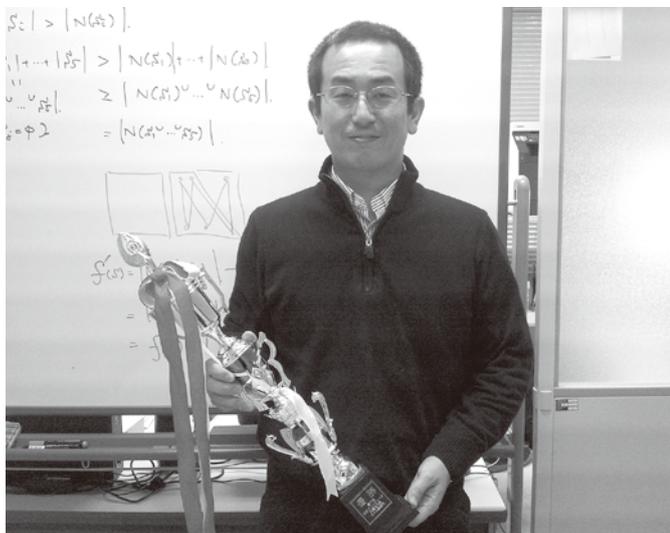
国際交流パーティ (ハロウィンパーティー)

留学生がプレゼンテーションを終えた後、国際交流サークルが主催するハロウィンパーティーが行われました。学長の英語によるスピーチで始まり、翔楽舞の演舞が行われました。立食形式のパーティで、いくつかのテーブルに分かれ日本人学生と留学生達が交流していました。ハロウィンパーティなので、学生たちは悪魔の耳をつけたり、あるいは袋をかぶったお化けだったり、皆それぞれ個性的な衣装をしており、開催された仮装コンテストも盛り上がっていました。



今回の国際交流週間について国際交流サークルの方にお聞きすると、「準備に手間取ったこともあったが、うまくいった良かった」とのこと。来年度は、皆さんもぜひ参加してみたいかがでしょうか。(絹川)

新任教員のご紹介 *New face*



はら ぐち かず や
原口 和也

商学部准教授 (社会情報学科)

担当授業科目：計画科学

トロフィーは昨年コンピューター大貧民大会で優勝したときにもらったもの。今年も大会があり、二連覇を狙っているそうです。

——先生の研究内容を教えてください。

「情報関連の研究をしています。アルゴリズムとか最適化がキーワードですね。その理論と応用が研究の内容です。アルゴリズムというのは問題を解くための計算の手順のこと。一つ問題があったら色々なアルゴリズムが考えられるんですけど、見方を変えただけでその性能が変わったりするのが面白いと思います。最適化はオペレーションズリサーチで使われる重要な問題のひとつ。世の中のいろんな問題は最適化問題と言うのに落とし込むことができ、数学の問題としてとらえる事ができる。それをどう解いていけばいいか、この問題はどのくらい難しいかなどを考えていてアルゴリズムとも関係があります」

——北海道に来て思ったことはありますか。

「最近思っているのは紅葉が綺麗だなと。学生の時は京都にいて、お寺と紅葉と一緒にいるのが綺麗でそのころは京都の紅葉が一番だと思っていました。就職して最初の職場は東北で、自然の中のブナ林とかの紅葉が綺麗でその時は東北の紅葉が一番綺麗だと思っていました。今は札幌に住んでいるんですが公園とかの紅葉見ていたらすごく綺麗だし学校の周りとかも綺麗だしこれはいいですね。北海道が一番綺麗かもしれない。あとは冬が来る事で北海道が嫌いにならないかが不安です」

——小樽商科大学の印象を教えてください。

「コンパクトな学校ですね。あとは、歴史の重みを感じます。学生さんはどこがって感じられるかもしれませんが初めて来ると違って感動します。よその大学と比較すると全然違いますね。そこはやっぱりいいなと思いました。学生さんは素朴で真面目な人が多いなと感じています」

——休日はどのようにすごしていますか。

「休日は子供と遊ぶくらいですね。子供が4歳でその元気を発散させるので精一杯です。」

サイクリングやジョギングなんかはしますけどそんなに頑張ってるわけではなくて身体を動かしたくなったときにやるくらいです。大学時代はサイクリング部に入っていて、北海道には二回来ました。身体を動かすのは好きです。スポーツ観戦もそれなりにします。頂上決戦はどんなスポーツでも見ますね」

——最後に、学生に向けてメッセージをお願いします。

「勉強とかサークル活動とかは当然なんだけど、もっと些細なことも意識して時間を無駄にしないように過ごしてほしいと思っています。のんびりする時間は勿論必要だと思うんですけど、それも含めて全部ががんばれと言いたいです」

(澤田)

2012年度 経済学科授業改善のためのアンケートのまとめ

2012年度に実施した授業改善のためのアンケートの概略と経済学科の科目別集計結果を以下のとおり報告します。

<評価方法の概略>

1. 集計科目/経済学科現任教員担当専門科目(但し、経済数学、研究指導、卒業論文(夜間主コース)、非常勤講師 科目を除く)
2. 実施期間/2012年7月(前期科目)及び2013年1月、2月(後期・通年科目)
3. 質問項目/以下のアンケート及び集計表を参照。
4. 評価/『5』が強い肯定、『1』が強い否定を示すような選択肢による5段階評価となっています。
5. 集計表の数値/この集計表には平均値(小数点以下第二位を四捨五入)を記載しています。

授業改善のためのアンケート

このアンケートは、教員が授業改善の手がかりを得ることを目的としたものです。回答の結果は、あなたの成績評価には関連しませんので、率直な意見を記入してください。回答方法は5段階評価です。当てはまる数値をマルで囲んでください。また、良かった点や改善点を記入してください。

授業の科目名と担当教員名を記入してください。

科目名：

担当教師名：

【回答の指針】

- 5 とてもそう思う
- 4 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 まったくそう思わない

- | | とても
そう思う | どちらとも
いえない | まったく
そう思わない | | |
|------------------------------------|-------------|---------------|----------------|---|---|
| 1 シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 学生の理解を促す工夫(具体例の紹介、十分な準備など)が見られた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 教員の説明や指示内容は、明確であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 教材や資料(板書、スライド、プリントなど)の提示が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 学生への対応(質問への回答、進捗調節など)が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 授業中の私語や遅刻者への対処が適切であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 授業に適した教室環境(人数、広さ、温度など)であった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 この授業全体について、内容を理解することができた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 この授業全体について、内容に満足している。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 この授業の良かった点や優れた点を、以下の欄に記入してください。 | | | | | |

- 11 この授業に対して、「こうすれば望ましい」という意見や要望があれば記入してください。

2012年度
経済学科授業改善のための
アンケートのまとめ

1	2	3	4	5	6	7	8	9
シラバスやオリエンテーションから、事前に十分な情報が得られた。	学生の理解を促す工夫(授業形態や内容)が見られた。	教員の説明や指示内容は、明確であった。	教材や資料(板書、スライド、プリントなど)の提示が適切であった。	学生への対応(質問への回答、進度の調節など)が適切であった。	授業中の私語や遅刻者への対応が適切であった。	授業に適した教室環境(人数、広さ、温度など)であった。	この授業全体について、内容を理解することができた。	この授業全体について、内容に満足している。

昼間コース

科目名	教官名	履修者数	回答数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
マクロ経済学	山本 賢司	118	63	4.00	3.65	3.59	3.73	3.25	3.73	2.83	3.38	3.51
ミクロ経済学	白田 康洋	142	20	3.85	3.35	3.60	3.45	3.75	3.70	3.85	3.45	3.60
統計学	劉 慶豊	227	71	3.83	3.73	3.73	4.01	3.97	3.99	4.03	3.39	3.61
経済史	今西 一	486	23	4.04	3.61	3.68	3.43	3.48	3.61	3.48	3.22	3.57
現代経済理論Ⅰ	水島 淳恵	138	28	4.00	3.43	3.32	3.64	4.04	3.86	4.07	2.93	3.25
経済統計学	寺坂 崇宏	78	15	4.60	4.46	4.73	4.67	4.67	4.60	4.33	4.67	4.73
経済学史	江頭 進	63	29	4.38	4.34	4.28	4.28	4.21	4.31	4.34	4.03	4.25
外国経済史Ⅰ	平井 進	17	8	3.75	3.63	3.38	3.75	3.13	3.88	3.63	3.63	3.75
外国経済史Ⅱ	松家 仁	175	12	4.50	4.17	4.25	4.00	3.83	3.58	3.92	3.92	4.42
国際経済学	船津 秀樹	140	59	4.09	4.14	4.28	4.11	4.29	3.95	3.66	3.79	4.07
公共経済学	佐野 博之	144	45	4.56	4.64	4.73	4.64	4.49	4.18	4.62	4.51	4.73
産業組織論	鶴沢 秀	163	37	3.97	3.73	3.81	3.95	3.86	3.84	4.08	3.76	3.86
財政学	天野 大輔	98	25	4.16	4.40	4.24	3.76	3.80	3.96	4.48	3.96	4.16
金融論	小島 直樹	61	7	4.29	4.29	4.29	4.43	4.33	4.29	4.43	4.14	4.43
国際金融と世界経済	渋谷 浩	60	11	4.64	4.91	4.91	4.73	4.91	4.45	4.55	4.27	4.73
経済学と現代A	横田 宏治	248	158	4.11	3.85	3.96	3.99	3.83	3.83	4.23	3.72	4.06
経済学と現代B	横田 宏治	215	135	4.02	3.80	3.77	3.93	3.55	3.39	3.55	3.50	3.95
経済学入門Ⅰ	柴山 千里	435	237	4.02	3.93	3.98	4.03	3.94	4.14	4.07	3.63	3.85
経済学入門Ⅱ	廣瀬 健一	462	116	3.35	2.51	2.41	2.40	2.59	2.53	3.46	2.28	2.33
経済学特別講義B	船津 秀樹	28	9	4.50	4.33	4.44	4.22	4.44	4.00	4.67	4.00	4.75

夜間主コース

経済理論	水島 淳恵	35	9	4.33	4.44	4.33	4.67	4.44	4.44	4.56	4.44	4.56
経済と統計	劉 慶豊	26	12	4.50	4.42	4.25	4.50	4.42	4.17	4.50	4.17	4.33
経済史	今西 一	64	5	4.20	3.60	4.00	3.80	4.00	3.20	3.60	3.80	4.20
応用ミクロ経済学	佐野 博之	66	27	4.00	4.04	4.04	3.96	3.85	3.63	4.00	3.37	3.74
経済学と現代	廣瀬 健一	44	19	3.74	3.11	3.11	3.16	3.37	3.06	3.11	3.11	3.39
経済書講読Ⅰ	柴山 千里	11	6	4.17	4.67	4.67	4.17	4.83	4.50	3.83	4.67	4.67

OBさんに聞いてみた! ～在学中のゼミナール～

昭和42年卒業 岩元 洋

私が所属していたゼミナールは「国際経済学」で、指導教官は麻田四郎先生でした。

ゼミ生は18名。入ゼミには英語の試験がありました。ゼミでの勉強は原書の輪読ですが、本の価格が高すぎるというので、先生が手持の本からコピーを取って配布してくれました。ゼロックスが出回り始めた頃で、写りが悪く読み難かったことを覚えています。内容は忘れてしまいましたが、当時話題となっていた「南北問題」を扱ったDevelopment and Underdevelopment という本で、著者はブラジルの経済学者Celso Furtadoです。今ではEmerging countryとかRising country といわれる「新興国」も、その頃はBackward country(後進国)からやっとUnderdeveloped country(低開発国)と呼ばれるようになったときでした。国際経済学を選んだ理由は単純で、商社に行きたかったからです。国際経済学と商社とは直接の関係はありませんが、何となく商社志望者向きだなと思ったのです。そして希望どおりの総合商社に入りました。駐在国がブラジルだったのは、Furtado氏が呼び寄せてくれたのでしょうか。

「コンバ」はよくやりました。大学から地獄坂をちょっと下りた所に「五楽園」という下宿、雀荘を兼ねた食事処があったので、そこをよく利用しました。先生を囲んでスキ焼鍋をつついたので、肉は牛ではなく豚なのです。当時の北海道でのスキ焼は豚肉が一般的でしたが、内地から行った私にはどうしても味がしつこくて困ったのが懐かしい記憶です。

ゼミ仲間は今でも一番の付き合いがあります。狭い部屋で頭を突き合わせて、侃侃諤諤と議論をしたことがこの上ない接着剤になったのでしょう。分かった積りで分かっていないチンプンカンプンの議論だった筈ですが、先生はどのように思われていたでしょうか。丁寧に解説しながら足りないところをフォローしてくれていました。

学生時代には、つたない知識、能力でもフル回転させ、少々背伸びしてでも思い切って発表して議論し、時にはほどほどにハメを外すくらい元気さが成長の糧になるかと思います。ゼミは「学問と人間学」の一番の道場です。

編集後記

パトンタッチしました!!

今回はゼミの特集で、先輩方の取材の様子を見させていただき、一足早くゼミの雰囲気を感じることができました。

来年からは僕が編集長になります。不安もありますが、先輩方に教えてもらったことを活かして頑張っていこうと思います。

新編集長 1年 藤本 拓也

私が編集長としてつくる『学園だより』は最後の刊となりました。次回からは1年が引き継いでくれます。今まで学園だよりにご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

次代編集部もよろしく願いいたします。

3年 木南 祥子

本号で3年生は引退し、次号からは後輩にパトンタッチです。この3年間、右往左往しながらも仲間とともに、やり通すことができました。今までご協力いただいた全ての人に感謝いたします。ありがとうございました。

3年 石崎 冴理

就活やゼミ活動などでとても忙しく、記事作成の時間をとることが大変でしたが、今回も何とか発行と相成りました。今まで取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。これからも、学園だよりをよろしく願います。

3年 絹川 真吾

就活用のスーツは風通しが妙によく、日々震えています。スーツで出来る防寒対策ということでストッキングの種類に少しだけくわしくなりました。

気がつけば今号で引退です。途中参加でわからないことだけでしたが、まわりに支えられてどうかここまですることが出来ました。ありがとうございました。

3年 澤田 菜穂

ご協力下さった皆さん、どうもありがとうございました。『学園だより』編集部では、男女学年問わず新メンバーを募集しています。

『学園だより』をお読みになり、私たちの活動に興味を持たれた方は、是非

ouc_gakuendayori@yahoo.co.jp

までご連絡下さい!今号の感想や、ご要望も、お待ちしております。



OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.173

リサイクル適性 

○この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
○リサイクル適性の表示 この印刷物はAランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。